

## 親がつい言ってしまう「余計な一言」 子どもの気持ちは…？

以下のことが記されている特集を見ました。

私自身も親としてどうだったのかと反省したところです。学校では職員に「自分の学級の子どもに当てはめて考えてください。」と話したところです。

本日の「おこぼDAY」で、ご一読いただければ嬉しく思います。(教頭)

### 「できたね」とシンプルに褒める大切さ 【「やればできる」】

親が望んでいたことをできていない子どもに対して、「〇〇（子ども）なら、やればできる」と励ます親——。しかし、もしかしたら、子どもにとって、それは「今は全くできていない」と言われているも同然かもしれません。たとえ努力しても、どうしても成功に結び付かないこともたくさんあります。だからこそ、目標に向かって努力している過程を評価して、「**頑張って練習しているね**」と口にしてあげた方がよいと思います。

### 【「これからもそうしてね」とくぎを刺す】

親が「片付けなさい」と言わなくても、自らおもちゃ箱に積み木を片付ける子。何も言わなくても食器を下げる子。その光景を見てうれしく思ったママは「まあ、お兄さんになったね」と言いました。しかし、その後、「なーんだ。やればできるじゃない。今度からも、ママに言われなくても片付けてね」。こう言われて、子どもの心はドヨンと急降下しました。



頑張ったことについて「やればできる」と言われ、未来のことにも「やらないかもしれない」という疑いから、前もって、くぎを刺されたからです。親はシンプルに今のことだけ、「**できたね**」と喜んであげてほしいです。

### 【「パパは4歳のときにはできていた」】

鉄棒の逆上がりに苦戦していた5歳のわが子。練習を積み重ねて、逆上がりができるようになりました。成功して喜んでいる子どもにパパが「成功したな。偉いぞ、頑張ったな！」と褒めました。しかし、次の瞬間…。「でも、パパなんか、4歳のときにはできていたぞ」と昔の自慢話。大人げない父親に、過去の自慢話を引き合いに出され、比較された子どもは一気に気持ちが沈んでしまったそうです。

### 【すぐに次の課題を言う】

野菜が嫌いなわが子が頑張って、トマトを1かけら食べました。ママは喜んだ後、「明日は2かけら食べてね」とすぐに次の課題を言いました。明日のことを思うと、子どもは何だか暗くなってしまったそうです。「**食べるのができたね**」と素直に喜んであげてほしいです。

## 子どもへの「言い方」にも注意【すぐにダメ出し】

コップに入ったお茶を、お盆にのせて運んでくれた子どもをママは「まあ、手伝ってくれてありがとう。助かるわ」と褒めました。しかし、その後、子どもはよろけて、お茶をこぼしてしまいました。すると、ママが「ほら、しっかり手元を見ていないからよ。今度からは気を付けてね」とダメ出しをしたのです。

こんなふうに言われると、子どもは「二度とお手伝いはしたくない」と思うでしょう。こんなときは、こぼしたお茶を子どもに雑巾で拭かせ、これもお手伝いしてくれたことに含めて、「しっかりと後始末していて偉いね」と言ってあげてはどうでしょうか。

## 【余計な「は」を付ける】

「今日は頑張ったわね」と褒められた子ども。しかし、「今日“は”」という言い方が引っ掛かります。前日はできていなかった場合に「今日も頑張ったわね」とは言ってもらえないとしても、「今日、頑張ったね」の方が、まだましな言い方だと感じませんか。

## 【泣いた子どもに】

友達におもちゃを取られて、泣いたわが子。「強い子になってほしい」という親の気持ちが強すぎて、つい言ってしまった一言が「弱虫ね。悔しかったらバシッとやり返さない」。つらくて、慰めてほしくて、ママの前で泣いたのに「弱虫だ」と言われると、子どもは気持ちの行き場を失ってしまいます。「やり返せるくらいだったら、泣かないよ…」とも思うかもしれません。

## 【「やることをやってから、遊びなさい」】

子どもが宿題になかなか取りかからないと、親としてはつい、「やることをやってから遊びなさい!」と注意したくなります。この場合、「やること＝宿題」です。これではますます、「宿題＝嫌なこと」と定着しかねません。こういうときはシンプルに「宿題をやってから遊ぼうね」と促した方がよいと思います。



言った後になって、「ああ、言ってしまった」と気付く余計な一言。

他人の子どもには決して言わないようなことも、親子間だと遠慮がなくなり、つい全部、口に出してしまうものですが、「言いたい」と思っても口に出さず、親の願いとして心にしまっておきましょう。その方がきっとうまくいきますよ。